

# 「きこえの教室」1年目のとりくみ

— 難聴児と難聴学級への理解を求めて —

足利市立相生小学校  
教諭 車塚 己喜雄

## はじめに

昭和53年度から、足利市では唯一の、そして栃木県では4番目の難聴特殊学級として、「きこえの教室」が相生小学校に開設された。聴覚障害という問題の特性から、従来の特殊学級とも違った新しい指導形態——校内通級制——でのスタートであったが、周囲の暖かい理解と協力にささえられて第1年目を終えるに至った。

この機会に、1年間の経過をまとめ、今後の難聴児指導および学級経営の糧としたい。

## I 学級の概要

### 1. 沿革

昭和53年4月 開設。学級数1 児童数5 担当教員1  
7月 教室改造工事終了。指導室 検査室 遊戯室 各1

### 2. 教育目標と努力点

#### (1) 教育目標

聴覚障害に基づく種々の困難を克服するために必要な知識、技能、態度および習慣を養う。

よく聞き、よく話し、  
だれとでもなかよくする子

#### (2) 本年度の努力点

1. 安定した難聴学級経営を確立する。
2. 難聴児を普通学級のなかに適応させる。

#### (3) 努力点の具体策

- 1-1. 教室および機器類の整備・充実をすすめる。
  - 2. 難聴学級だより、その他の印刷物等を配布して、職員の共通理解、地域への啓発をはかる。
  - 3. 学級通信の発行、父兄会の開催などにより、難聴児の父兄との連絡を密にする。
  - 4. 指導技術の向上のため、研修を積む。
- 2-1. 普通学級担任と連絡をとり合って、個々の難聴児に対し、普通学級と難聴学級が一貫性のあ  
る指導を行う。
  - 2. 「きこえの教室」を普通児にもできるかぎり開放し、積極的に出入りさせる。

### 3. 在籍児童

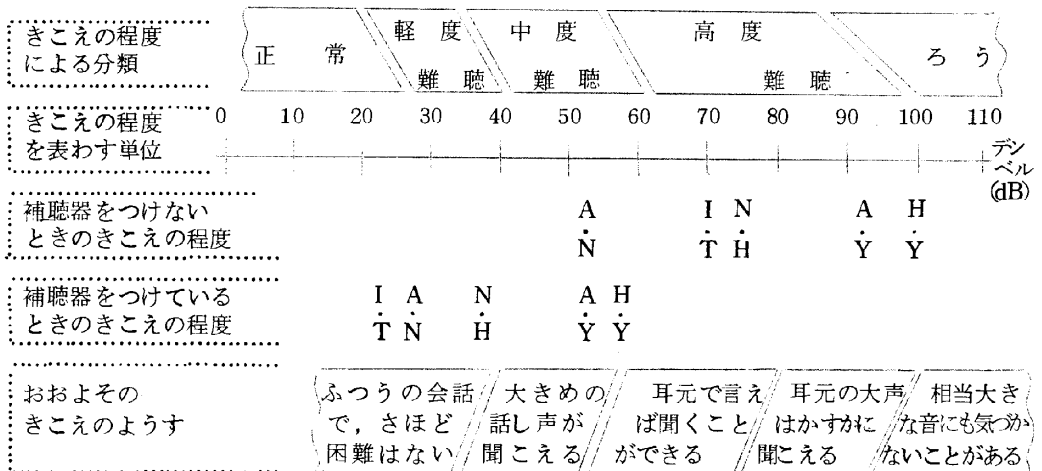
在籍児童と所属する普通学級

補聴器をつけて普通学級で学習

番号	氏名	性別	学年組	普通学級の担任氏名
1	A, Y	女	1年2組	岡部 雅枝
2	I, T	男	2年1組	金子 隆
3	A, N	女	3年2組	青木 秀雄
4	H, Y	女	4年3組	唯木 郁夫
5	N, H	女	6年2組	吉沢 文子



在籍児童のきこえの程度



### 4. 指導形態

本校では、難聴児の実態に即した指導を行うために、「校内通級制」という指導形態をとり入れている。在籍児は、ふだんは普通学級のなかで普通児と一緒に学習していて、きこえの程度や能力に応じて、決められた時間だけ「きこえの教室」へ通級して、個別指導を受けるのである。

校内通級制には、次のような長所があげられる。

○普通学級からの通級という面では……

- ①難聴児は、普通児集団の中で豊富なことばの刺激をうけて、言語発達が助長される。
- ②普通児は、難聴児とことばをかかわすことによって、正しい話し方、聞き方を身につけるとともに、障害児に対する理解を深めることができる。
- ③「きこえの教室」では、個別指導が可能になるので、個々の障害の改善に焦点をあわせた指導を重点的に実践できる。

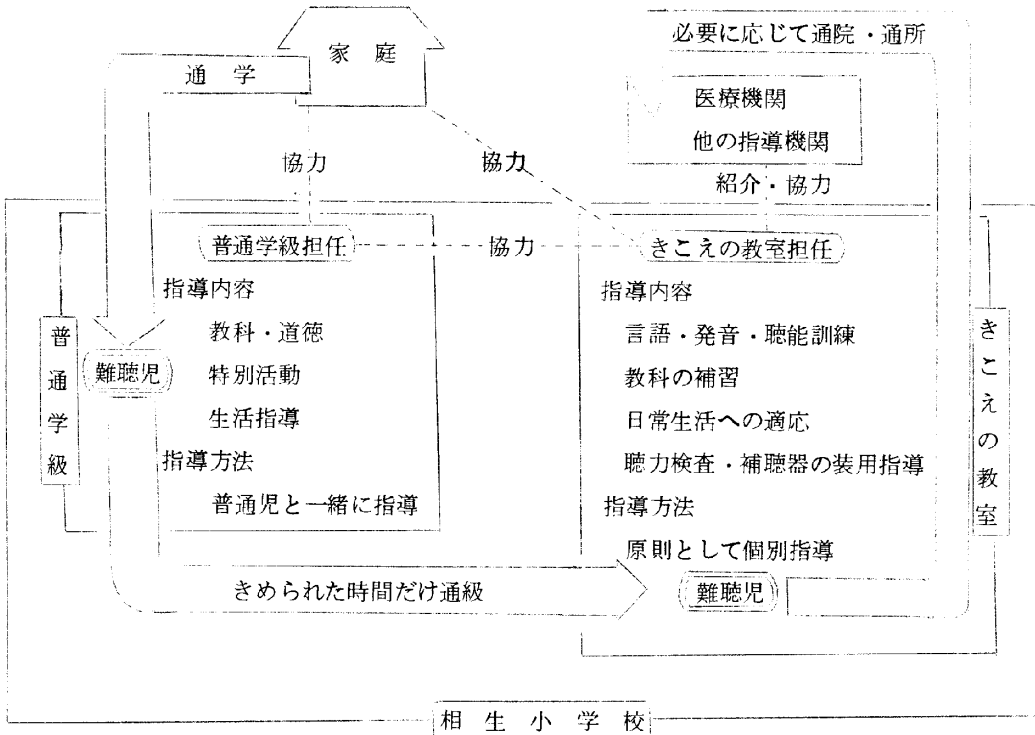
○所属する普通学級を校内におくという面では……

- ④「きこえの教室」担任と、普通学級担任との連絡が容易にとれるので、協力して難聴児の指導に

あたることができる。

- ⑤「きこえの教室」担任が、難聴児の学校生活の様子について、直接知ることができる。
- ⑥通級に要する時間が省けるので、通級回数が多くとれる割に、普通学級にいる時間も長い。

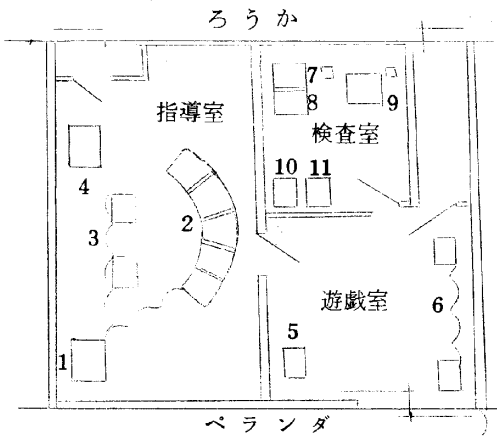
### 校内通級制のしくみと「きこえの教室」の役割



## 5. 教室および主な機器

教室見取図 (番号は機器の配置場所)

主な機器



1. 聴力適応式学習装置 (親器)
2. 聴力適応式学習装置 (訓練器)
3. 聴力適応式学習装置 (スピーカー)
4. サウンド・ビジョン
5. リズムボックス
6. 聴能訓練用電話器
7. オージオメーター (聴力検査装置)
8. オージオメーター用ブースター
9. プレイオーディオメーター
10. テープレコーダー
11. 観察用拡声装置

## Ⅱ 指導の実践

### 1. 主な指導内容

本年度「きこえの教室」で、5人の難聴児に対して行った主な指導の内容は、次の表の通りである。  
なお、個々の児童の能力や指導の効果については、後の機会にまとめてみたいと思う。

昭和53年度 主な指導内容

指 導 内 容		AY	I,T	AN	HY	NH	
1. 認 知 能 力	(1)視覚による、色・形・数量・物などの弁別・対応・動作の模倣	○					
	(2)聴覚による、色・形・数量・物などの弁別・対応・身体的な反応	○	○	○	○	○	
	(3)事物の分類・記録・比較・一般化・類推・抽象化		○	○	○	○	
2. 聴 能 ・ 読 話	(1)音や音声の違いを聞きわける	①楽器・擬音の弁別					
		②名前(本人・身近な人)の弁別	○				
		③メロディー・リズムの弁別	○	○	○	○	○
		④母音の弁別	○				
		⑤子音の弁別	○	○	○	○	○
	(2)ことばの違いを聞きわける	①音節数の違うことばの弁別	○				
		②音節数の同じことばの弁別	○			○	
		③文の弁別				○	
(3)音声言語を聞きとって、理解したり模倣する。	○	○	○	○	○		
(4)読話	○	○		○	○		
3. 発 音	(1)基本練習	①遊戯者・動作化(声を出しながら、とんだりはねたり……など)	○				
		②パバマ表(発音訓練表の反復練習)	○	○	○	○	○
	(2)発音練習	①母音	○				
		②子音	○	○	○	○	○
	(3)誤って発音している音の矯正			○			
4. 言 語	(1)文 法	①一語文	○				
		②修飾語のついた一語文	○				
		③二語文	○				
		④格助詞		○	○	○	○
		⑤動詞の活用		○		○	○
		⑥人称代名詞・こそあどことば	○				
		⑦文の構成・分解・変化		○	○	○	
	(2)日 記	○	○	○	○	○	

指 導 内 容			A.Y	I.T	A.N	H.Y	NH
5. 教 科 の 補 習	(1)国 語	① 一年の内容	○				
		② 二年の内容		○			
		③ 三年の内容			○		
		④ 四年の内容				○	○
		⑤ 五年の内容					
		⑥ 六年の内容					○
	(2)算 数	① 一年の内容		○			
		② 二年の内容			○		
		③ 三年の内容				○	○
		④ 四年の内容					○
		⑤ 五年の内容					
		⑥ 六年の内容					○

## 2. 通級時間割

本年度の通級時間は、右の時間割の通りである。

午前中の通級は、原則として、普通学級で国語・算数など、時間数の多い教科を指導している時間をあてている。

午後は、普通学級が放課になってからの通級である。難聴児は、放課後毎日通級して、ドリルや1日の様子を話しあった後、帰ることになっている。クラスの友だちを伴って来る難聴児も多く、生活適応指導の時間としても貴重である。

通級時間割 (53年2月現在)

	月	火	水	木	金	土
1	学級訪問	H.Y	学級訪問	I.T	学級訪問	
2	N.H	I.T	A.Y	A.Y	N.H	A.Y
3			NH			I.T
4	H.Y	A.N		A.N	H.Y	全員
5	A.Y	A.Y I.T	A.Y I.T A.N		A.Y I.T	
6	I.T A.N	A.N H.Y	H.Y N.H	(クラブ)	A.N I.T	
7	H.Y N.H	N.H	校内研修	H.Y N.H	N.H	

「きこえの教室」での個別指導



### Ⅲ 啓発活動の実践

第1節で述べたように、“安定した難聴学級経営の確立”と“難聴児の普通学級への適応”という二つの努力点の具体化のために、本年度は各方面への啓発に重点をおいたところみを続けている。これについてまとめてみた。

#### 1. 職員間の共通理解

##### (1) 難聴学級だよりの発行

難聴児の能力・性格の特性や、「きこえの教室」の活動状況を理解してもらうために、相生小学校の全職員に配布している。昭和54年の2月までに、12回発行したが、各号の主な内容は次の通りである。なお、この中から第8号を、資料1として別掲したので参照されたい。

第1号（昭和53年4月1日）

- 校内通級制のしくみと長所・短所

第2号（昭和53年4月1日）

- 難聴児を、普通学級で普通児と一緒に教育することの目的
- 普通学級児童への、難聴児の紹介のしかた

第3号（昭和53年4月5日）

- 難聴特殊学級の呼称「きこえの教室」について
- 在籍児の紹介
- 普通学級での、座席・ならび方などの配慮について

第4号（昭和53年4月21日）

- 講演記録「普通学級における難聴児のすがた」紹介

第6号（昭和53年5月8日）

- 開設後1カ月の動き
- きこえの程度をあらわす単位「デシベル＝dB」について

第6号（昭和53年6月9日）

- 教室改造工事について
- きこえのしくみと難聴 その1

第7号（昭和53年7月20日）

- 完成した「きこえの教室」内部の説明
- 1学期間の動き
- きこえのしくみと難聴 その2

第8号（昭和53年9月20日）

- 購入した機器の紹介と説明

第9号（昭和53年10月4日）

- 職員を対象とした「きこえの教室」説明会の日程
- 聴力損失の程度のとらえ方

第10号(昭和53年10月21日)

○特殊教育に関する研究調査会(文部省諮問機関)の報告「軽度心身障害児に対する学校教育の在り方」から難聴教育の部分

第11号(昭和54年1月12日)

○「きこえの教室」への質問と答え

第12号(昭和54年2月13日)

○1年をふり返って……お母さんたちの感想

(2) 「難聴学級関係者会議」の開催

さらに、難聴児がふだん学習している普通学級の先生方には、「難聴学級関係者会議」を開いて協力をお願いした。

53年4月5日 ○難聴学級の指導形態について

○普通学級担任と難聴児の顔合わせ

○普通学級担任と難聴児父兄の話し合い

4月20日 ○普通学級での適応の様子、問題点

○「きこえの教室」への通級時間割の作成

9月22日 ○普通学級で使用する、FM補聴器のマイクの取り扱い方について

10月4日 ○教室内部、機器の紹介と説明(全職員を対象)

54年2月13日 ○難聴児父兄との個別話し合い

もちろん、こうした特別な機会以外にも、校内通級制の長所を十分生かして、普通学級の先生方との連絡を常にとるように心がけている。

## 2. 普通児童へのはたらきかけ

校内全職員の協力と適切な指導のおかげで、いまのところ普通児と難聴児の間で大きな問題は起きていないが、「きこえの教室」としては、普通児に次のようなはたらきかけをしている。

ひとつは、難聴児の直接の友だちと、休み時間や放課後などに、難聴児も含めてできるだけ一緒に遊ぶことである。その中で、話しかけ方、問題の処理のし方を、普通児・難聴児双方に身につけさせたいと思っている。

もうひとつは、全児童に「きこえの教室」を順次見学させていることである。53年2月の時点で、4・5・6年と1年の1クラスが見学を終えたが、その後、高学年児童には右図のようなアンケートに記入してもらった。そして、質問の多く寄せられたことがらについての回答をまとめて、全児童(全家庭)に配布した。—— 資料2参照 ——

アンケート

きこえの教室や、きこえの教室に通級している友だちのことで、何かわからないこと、聞きたいことがあったら、書いてください。

---

---

---

---

年 組 名 前

### 3. 父兄へのはたらきかけ

#### (1) 一般父兄への啓発

難聴児と一般父兄との直接的なかかわりあいには、非常に少ないわけであるが、次のような機会に、難聴児と「きこえの教室」への理解を呼びかけた。

- 53年7月20日 PTA新聞「愛笈」に、「きこえの教室」の紹介記事をのせる。
- 11月6日 同じく「愛笈」に、教室の写真をのせる。
- 11月11日 校舎落成式記念展覧会にあわせて、「きこえの教室」を一般父兄に公開する。
- 12月11日 教室案内をPTA全会員に配布する。——資料3参照——
- 54年2月23日 4年生の学年部会で、難聴児教育について説明する。

#### (2) 難聴児の父兄への連絡と協力

校内通級制のたてまえから、難聴児を学区外通学させている親の心配のひとつに、学校との連絡がうまくとれるだろうか難聴だけになおさら心配だ、という声があった。そのため「きこえの教室」では、難聴児の父兄を対象に、学級通信「やまびこ」を週二回程度の割合で発行している。内容は、難聴児に関係のある学校行事の予定、学校からの連絡・注意などの補足説明、難聴児をめぐる校内の様子、難聴児の日記の紹介、などである。——資料4参照——

また、父兄会、個別懇談の回数をできるだけ多く開いて、親の不安の解消をはかり、同時に家庭での学習の進め方などの協力を求めた。

- 53年4月5日 父兄会
  - 普通学級担任の紹介、転校手続きについて。
  - 校内の案内。
- 4月15日 父兄会
  - 転校後の適応の様子について。
- 7月17・18日 個別懇談
  - 1学期の指導経過について。
- 9月22日 父兄会
  - 完成した「きこえの教室」の紹介、機器の説明。
  - 通学費などの補助について。
- 12月19日 父兄会
  - 2学期の指導経過について。
- 54年2月13日 父兄会
  - 1年をふり返ってみての反省会。
  - 終了後、それぞれの普通学級担任と個別懇談。
- 3月15・16日 個別懇談
  - 1年間の指導経過について。

### おわりに

難聴児ひとりひとりにとって、「きこえの教室」との直接のかかわりあいには、1日にせいぜい1時間であり、あとは普通学級での生活である。「きこえの教室」がこうして存在しているのも、普通学級の先生のご苦勞と、校内全職員の協力と、開設のためにいろいろご指導とご援助いただいた市教委関係者の深いご理解のおかげである。

「きこえの教室」の満1年は、これから先ずっと続くであろう足利市の難聴児教育のほんの第1歩にすぎない。今後も、普通学級の先生方との協力、各方面への啓発を続けながら、難聴児ひとりひとりの能力に即した指導を、さらに進めていくつもりである。



# 難聴学級だより

No. 8

昭和 53年 9月 20日

相生小きこえの教室

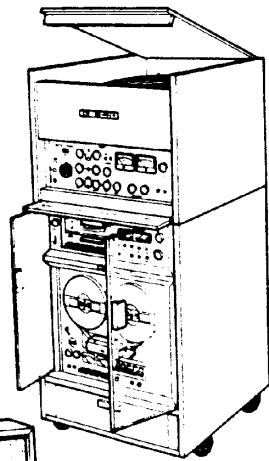
## いろいろな 機器類が揃いました

教室完成に続いて、検査用の機器、用具、指導用の機器が納入されました。簡単にご紹介しておきます。近いうちに先生がたに教室を見ていただく機会を持つと思います。そのときには実際に使いながら説明いたします。

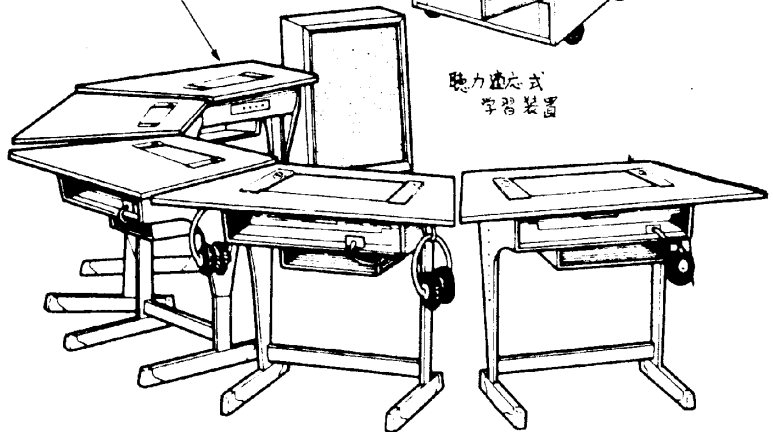
### 1. 聴力適応式学習装置

大規模な、性能の良い補聴器とよめる装置です。コントロールボックスには、二台のテープレコーダー、プレーヤー、FM・AMチューナー、スピーカーが付属していて、いろいろな音源を使って指導することができます。聴力訓練型訓練装置は、難聴児の聴力損失の程度や、聞こえ方のタイプにあわせて、音を増幅させたり、音質を調整して聞かせることができます。

コントロールボックス(親器)1台



聴力適応型訓練装置(子器)5台



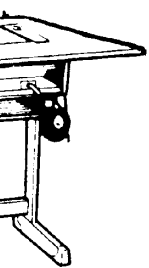
聴力適応式  
学習装置

2. 聴  
とい  
れる  
な音  
3. 反  
で  
4. 先  
る補  
5. ス  
6.  
7.  
8.  
9.  
10.  
11.

20日  
教室

が  
先  
の

1台



## 2. 聴力検査装置（オーディオメーター）とブースター

聴力損失の程度を測定するもので、一般に用いられているピーという音（純音）の他に、「ことば」がどれくらい聞きわけられるか検査できる装置を内蔵している。ブースターは検査可能な音の強さの範囲を広げるための装置です。

## 3. 幼児聴力検査装置（プレイオーディオメーター）

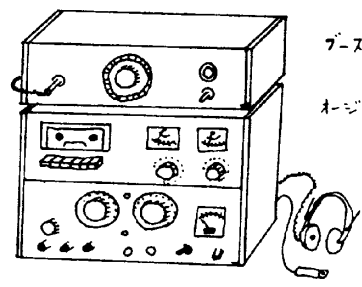
反応があいまいな幼児のために考えだされたオーディオメーターで、補聴効果の測定にも利用できる。

## 4. FM補聴器

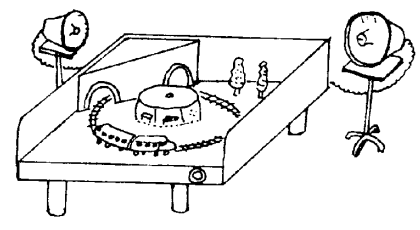
先生の声をFM送受信器によって、直接子どもに送ってやれる補聴器。普通学級での授業のときに使います。

## 5. サウンドヴィジョン

スライドとテープを連動させて、ことばの指導を行なう機器。



オーディオメーター



プレイオーディオメーター

## 6. 聴能訓練用電話器

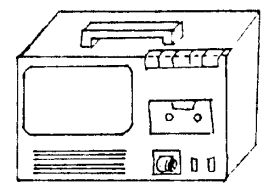
## 7. リズムボックス

## 8. 観察用拡声装置

## 9. オープンリールテープレコーダー

## 10. カセットテープレコーダー

## 11. 言語学習能力検査用具



サウンドヴィジョン



## きこえの教室から



本校に きこえの教室 が誕生して1年になるうとしています。昨年九月には教室改造も終わり、11月の校舎落成記念展覧会の際には、父兄の皆様にも教室を見ていただきました。現在、子どもたちの教室見学を実施していますが、きこえの教室 についていろいろの質問が寄せられています。その中から特に多かったものについて問答形式にまとめてみました。お子さんの年齢相応に家庭で話題にしていただき、あわせて父兄の皆様のご理解の一助になれば幸いです。

### きこえの教室 では どんな勉強をしているのですか？

私たちは 生まれてから6才くらいまでの間に、お母さんや周囲の人たちの話を、何回もくり返し聞いていたうちに、ふだんの生活に不自由しない程度のことばと発音を覚えてしまいます。ところが耳がよく聞こえないとどうでしょう。まわりから入ってくることばの量は、よく聞こえないぶんだけ少なくなります。ですから難聴の子どもは6才を過ぎても、ことばや発音が十分身につけていないのです。

そこで きこえの教室 へ行って、たくさんことばを聞いたり、ことばの使い方を勉強したり、発音の練習をしたりするのです。今までたりなかったぶんを取りもどしているわけです。

### きこえの教室 には どんな機械がありますか？

耳の悪いところを直すのは難しく、お医者さんでもたいへんなことです。きこえの教室 では とてできません。

ですから、たくさんことばを聞かせたり、正しい発音を覚えさせるために、先生の声を大きくして聞かせる機械が必要です。これを補聴器といいます。きこえの教室 には、小さい身につけられる補

聴器のほかに、聴力適応式学習装置 という大型で性能の良い機械があります。

それから、ひとくちに難聴といっても、全く聞こえないのではなく、その程度は、ひとによって違います。それを検査するための機械があります。これをオーディオメーター といいます。

その他には、大きな音の出る電話器や、リズムボックス、サウンドヴィジョン という名前の、ことばの勉強をするのに、つごうよく作られた機械があります。

## 教室の中は どんなふうになっていますか？

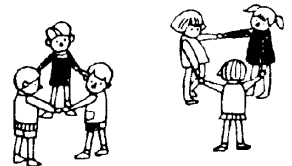
きこえの教室は、指導室・遊戯室・検査室の三つの部屋に別けられていて、それぞれの目的にあわせて使われています。

検査中や指導中に必要のない雑音が聞こえると困るので、壁は特別な作りになっていて、床にはじゅうたんが敷いてあります。夏でも窓が開けられないので、冷暖房と換気装置が備えてあります。

## 難聴の子と話をしたのですがよく通じません。

難聴の子どもたちが、普通の子どもたちと話をすることは、ことばの勉強のためにとても良いことです。なぜなら正しい発音や、正しいことばをたくさん聞くことになるからです。そして、普通の子どもたちにとっても、正しい話し方・聞き方を身につける良い機会になります。

- ・はっきりと正しいことばで話す。
- ・いいたいことを 要領よくまとめて話す。
- ・相手の顔を見て話す、聞く。
- ・話し手の気持ちになって 真剣に聞く。
- ・そのときの話題やまわりの様子を考へあわせて 内容を聞き取る。



以上のことを実行すれば、はじめはなかなか通じなくて気まずくなっても、必ずわかり合えるようになります。そうすれば、難聴の子だけでなく どんな人に対してでも、正しい話し方・聞き方で相手と話すことができるでしょう。

# きこえの教室案内

足利市立相生小学校  
きこえの教室

## 1. きこえの教室とは.....

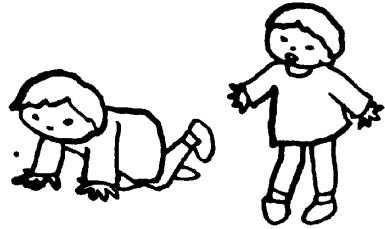
私たちは、「ことば」を使っておたがいの気持ちを伝えあって生活していますが、その「ことば」は生まれつき備わっているものではなく、「耳」で聞いて覚えるものなのです。ですから耳のきこえが悪いと、ことばをよく覚えられなかったり発音がおかしくなるという障害がおきてきます。「きこえの教室」は、そういう子どもたち〔難聴児〕のための学級です。

「きこえの教室」が従来の学級と大きく違っているところは、通級指導をしていることです。難聴児はふだんは普通学級で学習しています。そしてそれぞれのきこえの程度やことばの能力に応じて、週に数回「きこえの教室」に通級して、会話を聞きとる練習やことばの勉強をします。

このような学級は、足利では1つしかなく全国でも約250学級ほどです。

## 2. こんなお子さんはいませんか.....

- ・うしろから呼んでもふり返らない。
- ・テレビの音を必要以上に大きくして聞いている。
- ・聞き返すことが多い。
- ・わかったふりをしたり、見当はずれの答えをする。
- ・発音や話しかたがおかしい。



以上のことは、難聴の子どもたちの特徴です。もちろんこういう様子がみられる子どもも全てが難聴児とは限りませんが、難聴児をみわける一たのめやすとされています。

相生小学校の「きこえの教室」では、年齢に関係なく難聴の疑いのある人たちの相談に応じています。難聴児は乳幼児期の適切な指導と育てかたが、将来の言語発達や発音に大きく影響するといわれています。身近に難聴らしいお子さんがいたら、一刻もはやく相談においで下さい。

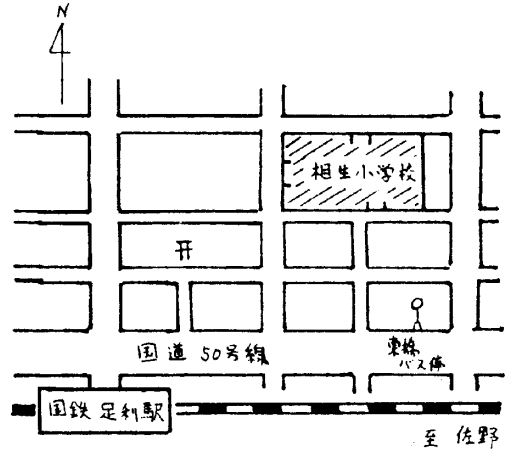
### 3. 所在地

・足利市相生町1の1 相生小学校  
電話 (0284) 41-2894

・国鉄 両毛線足利駅より徒歩10分

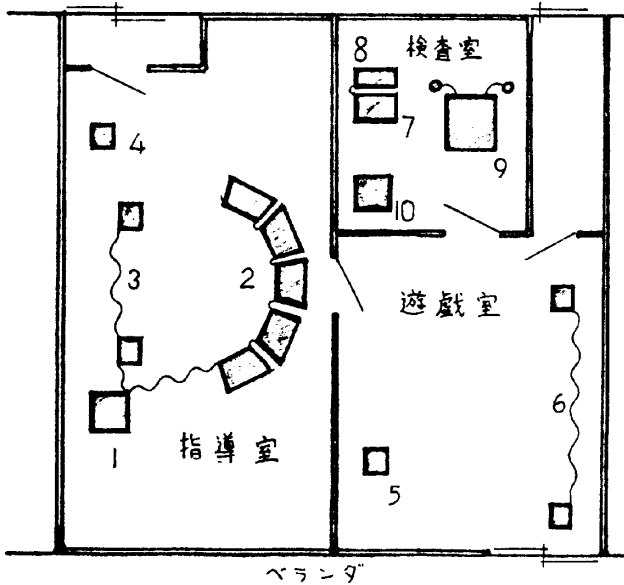
東武バス 桐生 ← 東足利線  
東橋バス停より徒歩5分

関東バス 足利 ← 静和線  
東橋バス停より徒歩5分



### 4. 教室の概要

3うか



1. 聴力適応式学習装置 (コントロールボックス)
2. 聴力適応式学習装置 (訓練器)
3. 聴力適応式学習装置 (スピーカー)
4. サウンド・ビジョン
5. リズム・ボックス
6. 聴能訓練用電話器
7. 聴力検査装置
8. 聴力検査装置用プスター
9. 幼児用聴力検査装置
10. テープレコーダ



# やまびこ

きこえの教室学校通信

No.67. 54. 2. 17

日	曜	週 の 予 定	2.19 ~ 2.24
19	月	朝礼 児童会役員選挙立合演説会(3.4.5.6年)	
20	火	児童会役員選挙投票日(3.4.5.6年)	
21	水		
22	木	委員会活動(4.5.6年)	
23	金	学年部会(4.5.6年父兄) 進学説明会(6年父兄)	
24	土	持久走大会(全員)	

相生小がテレビに.....

役員選挙の運動風景が明日(18日)午後6時日本テレビのニュースの時間に放映されます。

持久走大会(24日)

1年(あじみ) 400m	} 校庭
2年(飯島) 600m	
3年(耐部) 800m	} 陸上 競技場
4年(春山) 1000m	
6年(永井) 1200m	

・前日までの健康管理と、当日朝の体の状態をよく確かめて参加させて下さい。

歯はキレイかな?

来週中に、各学級で「歯垢テスト」が行われます。

1年の風部先生が留守で、自習しているとき、かてにトイレに行っている子どもが多い中で、あじみさんだけは、となりの教室の中島先生に「おぐんじょに行ってもいいですか」と言ってから、行ったそうです。えらいですね。

## 評

昭和53年4月1日、相生小学校に難聴学級「きこえの教室」が開設され1年が経過いたしました。本稿は、この1年間の難聴学級の歩みが詳細に記されていますが、いかに全職員の深い理解と協力のもとで難聴学級の経営が行われているか、またそのために担任がどれだけ努力をされているかを伺うことができるものであり、同じ学校で、同じ児童を教育する立場から、望ましい校内の協力体制のあり方について貴重な示唆を与えてくれるものであります。

特に、本校では、児童の実態に即した指導を行うため、指導形態として「校内通級制」をとり、専門的な治療教育だけにとどまらず、担任相互の密接な連携のもとで普通学級との交流を重視するとともに、ひとりひとりの児童の障害の程度に応じた指導方法・内容を細かく分析し、個別指導の場を意図的・計画的に設けて実践されたご指導に対し、深く敬意を表しております。今後も、聴覚に障害をもつ児童の教育の振興充実に御尽力くださるよう期待いたします。